BANDED BLUE

BANDED BLUE を通して見た日本画

岡村桂三郎
OKAMURA　Keizaburo

松本　哲男
MATSUMOTO　Tetsuo

末永　敏明
SUENAGA　Toshiaki

長沢　　明
NAGASAWA　Akira

番場　三雄
BANBA　Mitsuo

谷　　善徳
TANI　Yoshinori

現代まで、連綿と受け継がれてきた日本画は、岩絵具や膠などの天然素材の独自な物質感によって、表現の計り知れない可能性を秘めている。作者の人間力が、他の素材よりも素直に反映され、感情、時間によって、微妙に変化を重ねる。

絵を描くということは、人間が生きているということ。ただ描きたいものを描き完成させるのではない。結果ではなく、経過、すなわち、時間の中の感性から、何を学び取ったかを大切にし、豊かな人間性を育成することである。現在と過去をみつめ、手探りしながら行う自分探しである。それぞれが自分を貫き、日本画の古典的なイメージを打破し、新しい可能性の探究をする。

自然に恵まれた山形の地から、自然との対話でもある写生を重視し、地に座り、自然と一体になり、五感を研ぎすまし、対象から沸き起こる感動を吸収する。そして、人間本来の力を作品に盛り込み、感動や共感を生み出す。

絵を描くということは、人間力を高めつつ、一生かけて描き通す、人生の表現みたいなものである。

「BANDED BLUE　東北芸術工科大学の28作家」

会期　2005年9月16日（金）～10月2日（日）
会場　鶴岡アートフォーラム

【趣旨】

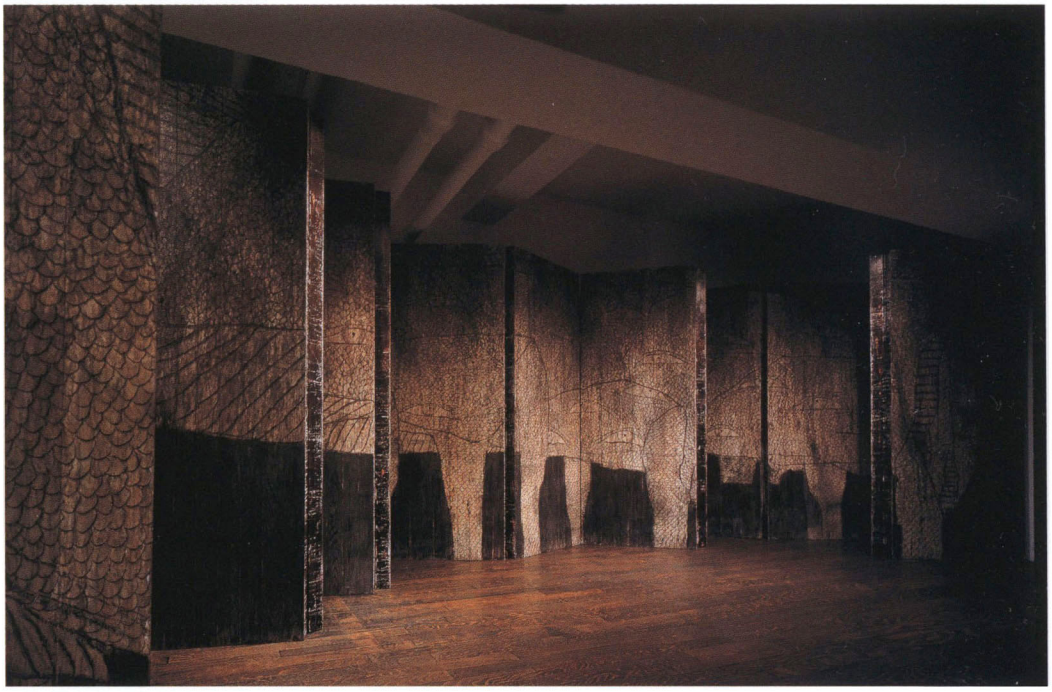
鶴岡アートフォーラム開館を記念し、山形の地に関わるアーティストの活動を見渡す試みとして、東北芸術工科大学で教育現場に携わりながらアートとデザイン分野で活躍する28名のアーティストに焦点をあて、日本画、洋画、彫刻、工芸、建築、グラフィック、映像、写真など、じつに多岐にわたる現代の表現を一同に紹介します。

本展は、鶴岡アートフォーラムがもつ独自の機能を活かすことをコンセプトのひとつとし、ギャラリー（展示）、フォーラム（講演、上映）、アトリエ（ワークショップ）の各エリア、そして建築までを含めて内容と会場が一体となった、ひとつの総合文化事業として体現する試みです。

岡村桂三郎

白澤　　2004年
225.0×90.0×12.0cm　板、岩絵具
鳥 04－1　　2004年
295.0×90.0×8.0cm　板、岩絵具

自然の胎内の空ろの中に宿るもの。それを単に生命とよんで良いのかどうか、本当はよくわからないのですが、僕はいつも、そのようなものを思い描いています。

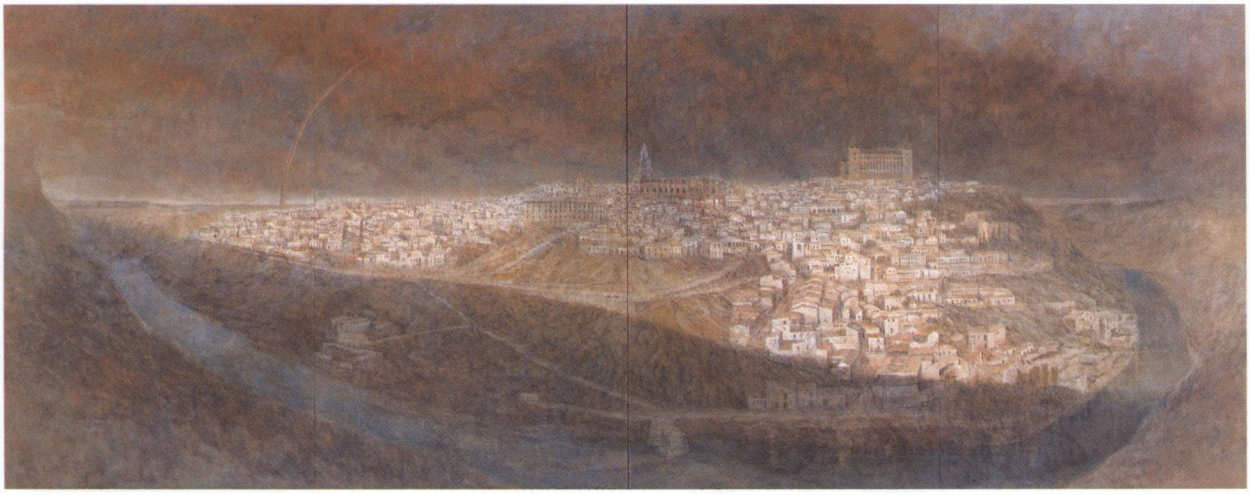


白澤
鳥 04－1

松本　哲男

トレド　　1990年
170.0×420.0㎝
和紙・岩絵具

トレドはタホ川が周りを囲むように流れる城壁に囲まれた街である。1561年まで首都として数々の支配者に統治されてきた。エル・グレコが愛した街でもある。清らかな中にも生死をかけた騎士の戦場でもあり、ローマ時代からの城塞で、マドリードの前進基地でもある。トレドを通して歴史の時間と空間を見ていると吸い込まれる気持ちになる。
スペイン独特の明暗の対比が面白く、暗い空は明るさの強調でもあり、歴史の深さの強調でもある。



トレド

末永　敏明

Eine Welt　　2003年

直径130.0cm
綿布、岩絵の具、ピグメント、箔

宇宙では万物の遊離と結合が繰り返されている。結合された生成の大きさによって、惑星や隕石や塵になり、それらは宙に浮遊する。かつて夏の北極圏で一日中沈まぬ太陽の下、私は足元から延々と広がる鉱物が織り成す360度のパノラマの中にいた。気の遠くなるほど数々の偶然が重なり、宙に浮遊するものが集まって出来上がった風景である。

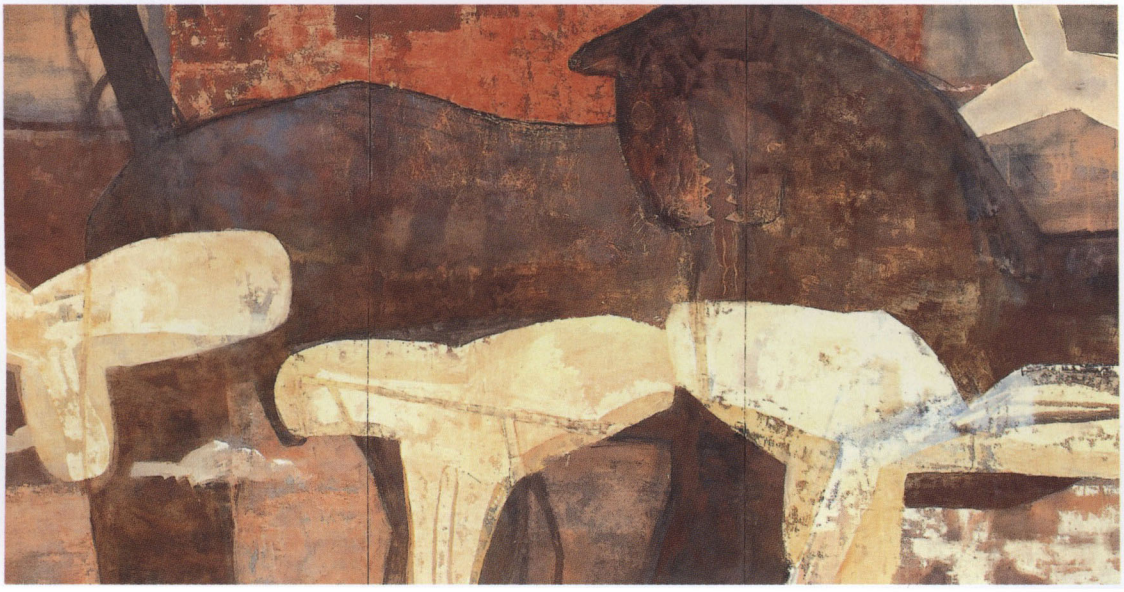
Eine Welt

長沢　明

トラとメシベ　2005年
220.0×420.0cm
寒冷紗に土、鉄粉、岩絵具

トラとバツ　2005年
184.0×300.0cm
寒冷紗に土、鉄粉、岩絵具

「トラ」をうたって描いている四つ足の獣は共通のアイコンのようなもので、しいて言うならば生命を象徴する化身でありたい。ラスコーの洞窟に突然出現した時代の「トラ」。そんなイメージです。



トラとメシベ

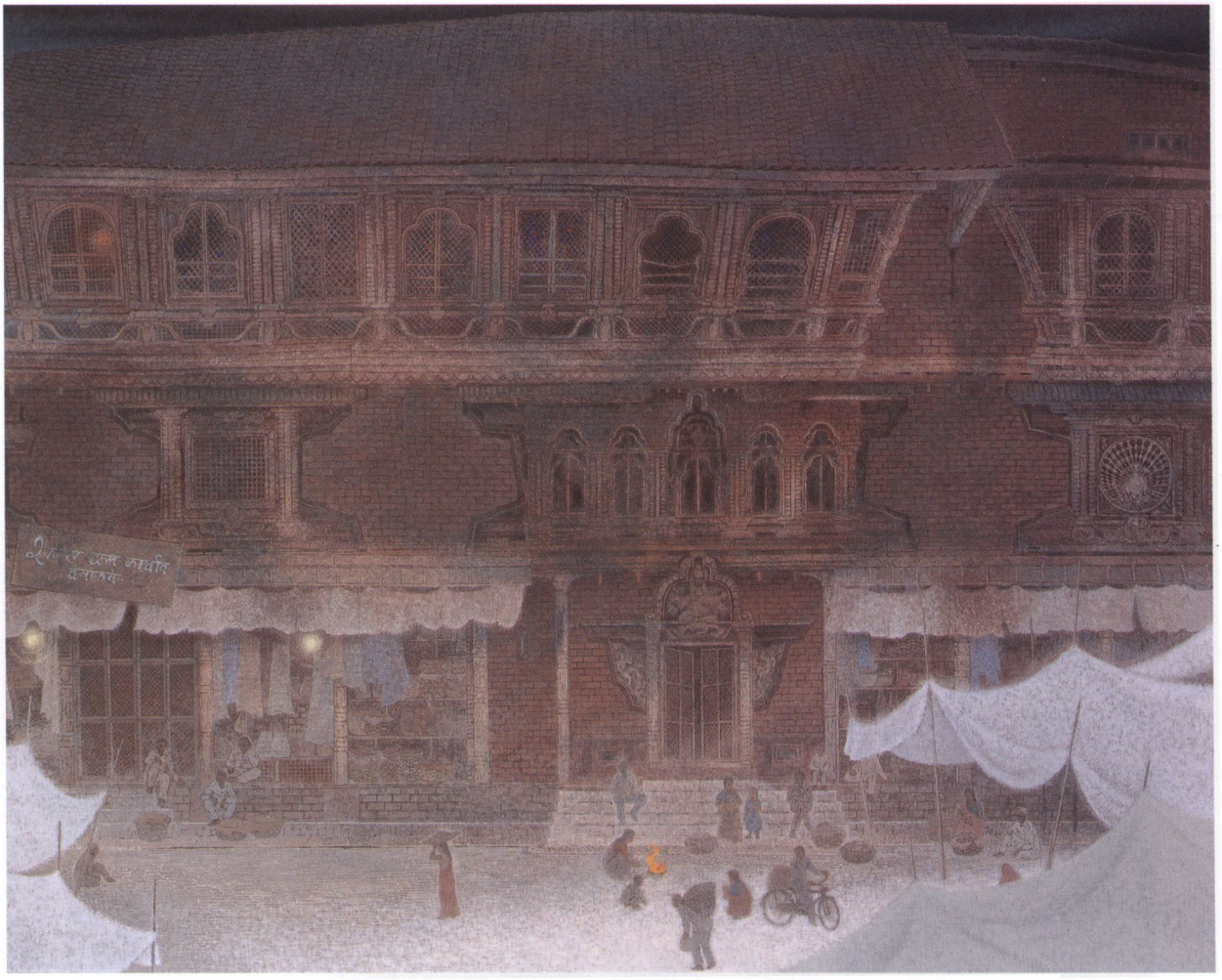
トラとバツ

番場　三雄

カトマンズ晩照　　2004年

180.0×225.0cm
紙本、岩絵具

中国、ヒマラヤ山脈とインドの間に位置するカトマンズ盆地。ヒンドゥーの神々を祈り人々は生活を送っている。そんなカトマンズの夕暮れを作品とした。



カトマンズ晩照

谷　善徳

神池　　1999年

225.0×180cm
和紙、岩絵具

羽黒山の五重塔の周りは、塔を通して、回りの気が天に昇るようであり、そして、山頂の鏡池は、地の底深くまで辺りの気を呑み込んでいるようである。蜂子皇子の八乙女洞窟の伝説があるけれど、私は、池の底と五重塔の天（そら）が繋っていて、羽黒神の化身と言われる九頭竜王が行き来しているような気がしてならない。

マーケット　　2004年

180.0×225.0cm
和紙、岩絵具

メコン河はチベットに始まり、ミャンマー、ラオス、タイ、カンボジア、ベトナムに至る6ヶ国の国々を流れる。様々な国の人々の思い、願い、魂を呑み込んで下流のメコンデルタまで流れ着くようで、とても複雑な心境になる。

マーケット

神池